雜記 二

へ 18
1887
2

へ13
1897
2

帝國圖書館藏

雜豆羹義軍談事と二

友 東 和 文 軍の

和文の大友のこうぐ軍勢いかい海陸二ぬよりこうれく行くく
行をくるよ責よせうとて前の人馬をくるひて小倉よ
ちかきのひろ江のそよ帳まろ辻のしよのありくくえうくば秋
まんのそ赤ひのそそうこうこうこ和紙よ寄ほり城一口をたひ
生ひうひ年ぶ洲ちうこのありとと角史ゆ〜せといつのあもうく
六角芳師也桂子丸ひとつよ〜あしわくくありひのゆよ六角
じゆうんとを和とうく寄れ赤ひと軍の海をいうこう
ぬうこよこうこれば大友ぐこは桂芳せてひしのうとぬこ

たいめうをやとりてやとりをとりてはかの
のをとりてはかをひるがへさせてみはかの家
ばりふとのかりをひろくとひろくせくかやしかまさ
あるぬうと
金箔ときんぱくをうすくたたきしものを紙ぶくの
丹板殺りうやせらの紙ぬりやの家ハ板が紙ひれをきるが紙
不五ツ引ずゝ五ツ引ずゝでんぐ大敵ふうたぐをきせが紙
とそひくるうとうくぐのうれば大なる紙のみを
ひの白矢倉のうゝ矢とき白うくきの白くのきの白と
又ちゝせば京ぬのうとまる板のひとりひくさけあハせで
ちうとうとうきとひとうきてイヤすうくせきら

のをとぞいくしるをたるよたたうとうとうとうとうくくくとと
とそよひくくとれおうるをよるのうるハをうくむをハぬ
うくおうるまのをさくくおうてのるさ浦ぬるのうるハをのの
孫ををの二の命ををとはをのうとをのうとのうい
の紙をすぐをおしるとをみぐのうとをの板をの板のうくく
よるうくくひくくるおうるハをとをくくおぐくををくくを
あるをとをくぐくのをひくくをくくおぐくをくくと
るぐをけ雪をでくをのとあるの新をを赤板のをの車
よをハくをくをくくをくくかるたるのよるもおくををるを
とぐうるをくをハひくくをくくをくくをくくをけをいのをるるをとたるう

ひてとりてもはがねのもりをかぶりまつ
そくゝ又ゑりさまりてゑぶ一ぱいうけあてゑのうけちかむしと赤
きの鎧ぬいまて是のうりをとりたしはがね浅黄綿ぬいのまま
殿りとり乳八かぶれ作のこうねんこう拾ちかとはあのあるうえんと
めつしいあるでやりつかをて赤いちゝあうこんけちあちこでろ
たるさきをあをれ松ぬいあをよをそをれし仏の形のとくちう
大なうこうもおとしてさいやうよあをこるゑ武者人赤
あゝかあゝあれねむゝくゝや栗毛のやせるようを御の
屋がいこけ物ようろうとゑさあがちいあゝめありりげよ
屋ぐろうけさ屋とあるあをてあまねさあつそれ武者ふう

いやをとをと好まいあねとも赤ぐろをもあのうけたが
ひよ猪皮をつさまでもゝ赤ぐそ形い赤をそふ赤ちを
まさと御ちげる去まのあ鎧のおとしみ赤をまをそ答形
作の平緒をそうそのるのたをかちうゝのけをいやを東ば
ゆゝいさはいゝふとうてかるいふをあふと後り今ひ
をそをようふをえくうあをあとあをうゝあふあゝくうあゝを
毛がゝそてをさんをあといふもさあふも男衆の屋ふうげ
てゑをうる兵をいくさの始としてのゑをとおたくうふりる
答まるうりはばりがをれていあふるいとをあいくさいあり
そひをうる

まうたづいよ〳〵今ひ第ゐさ方がまゑぐやとて繒
屋八さしたちうるそそはらちのあくるそてふるいと系ゐ
よ御ゆして紙ゐ乙と風の衣と作ゑたり衣ゐの
ちゐ系ゐ作とうゐ出ゐ〳〵と絳定し〳〵ゐよゐる〳〵系ゐ屋ゐう
系ゐ系ゐう乙とゐ出ゐとゐ系ゐあゐ尾谷の屋ゐ出ゐ紙ゐる系と
ゐよゐうゐ系と逃あゐれゐ系ゐ系ゐ系ゐ人系ゐりゐ出ゐ紙ゐ系ゐ系ゐ
と定ゐ谷ゐくとゐ紙ゐるさいゐい今〳〵系ゐ出ゐ系ゐう系ゐ風も
て系ゐ〳〵ゐれゐばと屋ゐる系ゐ谷ゐて系ゐむゐ系ゐの系ゐて系ゐも系ゐう
ちゐ出ゐて系ゐる系ゐ紙ゐの系ゐ系ゐうゐの系ゐ系ゐ系ゐうて系ゐる系ゐ
ひゐ〳〵ぬゐ系ゐあゐ系ゐ系ゐも系ゐ系ゐいゐと系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ紙ゐ

きひしいよゐてゐのゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐぬゐと系ゐ系ゐ系ゐさゐのゐ系ゐ
ゐ系ゐ〳〵ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ
も歌ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ
ゐ尾谷ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ
ゐ系ゐの系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ
り系ゐゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ
系ゐば系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ
のゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ
暴系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ
たゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ系ゐ

むらんのたまをのつりうてみたと
ちからをしらんたがくさり
ぞーでー
うんやん
あやーしぞ
ミとのやらみと
のうれんと
うーしろへ
ひきうけて
うちぐみて

てんのうの
ちからを
ぞ
さらさらと
うーぶのしゃ
めらめらと
しぞ
このちからさでは
ちからをつきむも
ひりとへ
いかれぬ

今のあつとうハあいだやうりあもくくれたりの作ハ
じやとのまくばあ屋谷まあるさそくちあつまやうあや
ふてひとちはむねとまろれそ浦やまうりなしの
和まうもいろ紙おまあ事ものて出ヒ引色まめうるいはの
うとと後毎賞の出とりまうるが夫ら別ハまてあるこにかい
ふとそちたちがくさいら海ぬぎそてはいの多のおとうぶの
あいまくどやちくいくさとりべーと作ものハまとりれまさ
まが編言ケまのまくりまの出がおりうふもちひうちうさ
つまくまちなわ和あくりまりれが赤ハ時ま思いんて作ら
ふてひ和ま勅使下向の事

行り 勅使人名大江匡房 稼家の事

ちまるまいりまそいまむまとしいりまれまり和ま勅使とりまとまる
まとこ利振ちまり人ごちまがるまいと稼おくれ大江匡房ま金
そ稼ら多西人の勅使ハ稼の用ちまとて冷まよ金ひらまふ
又稼の祈ま長ら戻りまハ和のまの夫とのくまま稼せんとて金
ま人へいらまるまの風ちまとおさせちまくまりまを紙ま紙
稼まま匡ちハまとがちままりふ漁のまきりふとまのじゃと
大江匡房一名ちまれる

不昇今雖波来　京邸同日此下歌
如何思君為　自船　貞道　芝の浦保

人ぬいそとてゐるく
りしろいるやうなるいろ
いろはうつもぬれもはそうはうまつしをしをとを
とゐるからむふとなるらんとゐるらいかの教の
をるがなつさるいうくよ寄てもかはかをとの人でゐ
ひとを合ひゐるとを合そは筆とのまとをうるうて
ちふるうねとゐるひをうさしの寄人なれはそまを西うう
うりうて古今の為かとうれる

ふぐくと筆ゐのうちのあうぎうよ

いまふうんゐくゐかりそうりよ

と源かの人は船中のくうねおそ西ふ源の叩くうまを吾

小田うでうれる新浦の浦もうさうて浦ゐゐの
浦はうひ日数と色て河浦のもうこうを色ふ吟ゐの浦
とゐりそくをうるひはゐのさうる

世中のいくさ乃ゐりてうれは

たちのちるとはうろうるう邪

三人乃勅はちゐうるとよ行色ふそちちゐの四宮ちうと
什ちうの所のゐるうるそうゐよ行をゐうそ四しふい物をゐうご
新米の稲と浦さ今ぎうの稲ようさうらのあうけを稲日たう
ゐうとゐうこうるふくうるまでそうれうくまでふられうるそは人名色宮
ハ大なのとゐるよむふいのゐ生ゐのいくさのゐ四ちうは

[illegible]の小町ぶかいさうくもの
てうゝが名代のゆくるたなびきそでこそ
宮さいへとそはあゝさそのとられる四ぶけきあ八はし
はてそ[illegible]の四のゆゆ中の四と二人もとゝし
行ゝ初ゝもそたついさいはゆちまてゆふいうとさる若草
のゝらて大なりしらとゆそこはる動仕の[illegible]
[illegible]ゝく春宵[illegible]動仕もはる
[illegible]しゝ宿もうあつゝそゆまふいさうくよ領[illegible]
[illegible]れば動仕はあまうあいゝくゝさあくとそうゝ
[illegible]ゝはいそ[illegible]れ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]の品はゝ[illegible]ゝのゆゆ用ゝ[illegible]ゝ[illegible]の人の
[illegible]の弁とゆゆとはゝ[illegible]ゝ用ゝゆうゝはゝ[illegible]とのはそゆと
ゝゝゆちゝ[illegible]ゝゝゝ

いろくのものらぐ八色六人とでさうすをふと十四作う
てとけ出そ八ゐうろふと海中如意をかゆ玉町方ゆそ
ろとふるゐ行ろうりてこふとふれらとろとだあくよはくも
ち作くろるもどこをせんとさけるゐ人宝町の出ろう
はまうの山絵の紋のふきとけるゐ初めねうと入れる
ゐ人へくるとけるはしせきたや町の大なこんとのうちる海
いろのうかとはあるせざれいちくのさよのあるとのうハ衣
ゐまのあとりのくとりまるとうあるとこ海敵せる山
れのうれ松の作ねうハ立れるといふあくものまるゐる二
ね作ゐの亜松系すハまるゐ山ようハせるゐよゐ

てうちうゐ仙者の天山ようちうゐうこうゐつおの海和やうう
ゐるれたう鎌ようゐ四月れ系作ねうはうくくとふうう
うふゐるよ不中ゐるくうふうるくよもひゐる二いうとさけ
ゐるはハうしくさあくとそはの前くくとりとうてちのく
ゐうくくものよ

いつしひうゐ山ゐるでちうくうさ作ゐて
ゐうくくくもひくうちゐ中ゐるそ

こひしるそみりのとうあうくとうとくれくとうゐくくて
お代まくのゆるうくゐくてもみうくくさよゐくくし